

B-44 短針および長針による運針の成果について

奈良女子大 ○野坂 靖子
花岡 利昌
北村 君
稲田 しげ

短針および長針による運針については、種々の研究がなされているが、ここでは、中学生に運針を行なわせて、その練習効果の点から両者を比較検討してみた。

方法としては、中学校2年生女子26名を対象にして13名ずつの2グループに分け、各グループにそれぞれ短針および長針による運針を2週間ごとに行なわせた。運針用布は100 cmのさらし木綿を用い、1分間運針を行なってその結果を針目の均一性、針目の直線性および運針速度の面から検討してみた。針目の均一性については、ライトメスルーペを用いて針目の大きさを測定してばらつきをみ、また針目の直線性については一定の基準線を設けてそれに一致する針目を数えて比較したところ、いずれについても、練習効果はわずかに認められたが、短針および長針の間に顕著な差はみられなかった。また運針速度については、針目数および運針総丈を測定して比較したところ、両者とも練習を重ねるにしたがって速くなることは勿論であるが、両者を比較すると、初

期においては小学校より続けてきた短針の方が長針に比しわずかに速い結果がみられたが，回を重ねるにしたがってその差はほとんどなくなり，さらに続けると再び短針の方がわずかに速くなる傾向にある。

しかし運針技能については個人差が非常に大きく，短針および長針運針による優劣については，今回の実験においては，はっきり見出すことができなかった。